

東北学院大学 「遠隔授業の受講状況に関する学生調査」 分析報告（学士課程）

2020年8月12日

学長室インスティテューショナル・リサーチ（IR）課

報告内容

1

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善

調査目的

【学生への案内文】

東北学院大学における遠隔授業は、前期の授業が半分ほど過ぎました。この調査では、学生の皆さんの受講状況についてお尋ねします。集計結果は速やかに学内にて共有し、前期中の残りの授業・教育改善と後期以降の体制検討に役立てられます。

この調査結果は統計的に処理され、東北学院大学の教育改善と研究目的にのみ使用されます。個人を特定できる形で公表されることはありません。そのため回答内容が成績評価に影響を及ぼすことはありません。

2020年6月30日

東北学院大学
学長 大西 晴樹

調査概要

調査対象者：学部学生及び大学院生（2020年6月30日在籍者数）

- 学部学生：10,922名
- 大学院生：126名 合計11,048名

調査方法：Google Formを用いたWeb回答方式
（認証により学生番号を取得する記名式調査）

調査期間：2020年6月30日（火）～7月13日（月）

結果公表：調査結果は本学の教育改善と研究目的にのみ使用し、統計的に処理され、個人の特特定ができない公表と回答内容による成績評価に影響がないよう配慮する。
個別の内容は一切開示しない。

※本調査の回答結果は守秘義務の課された教職員のみが閲覧し集計・分析を行っている。なお、学校法人東北学院個人情報保護規程第11条第4項各号が示す事項以外に利用されることはない。

- Q1：学年を教えてください。
- Q2：学部・学科・研究科を教えてください。
- Q3_1：遠隔授業の受講場所で主な利用場所を選んでください。
- Q3_2：遠隔授業の受講場所で2番目に利用している場所を選んでください。
- Q3_3：上記でその他と回答した場合にその場所を回答してください。(20文字以内)
- Q4_1：遠隔授業に使用している機器について、1番多く使用しているものをえらんでください
- Q4_2：遠隔授業に使用している機器について、2番目に多く使用しているものをえらんでください
- Q4_3：上記でその他と回答した場合にその機器を回答してください。(20文字以内)
- Q5：1週間あたりのオンタイムの授業を履修科目数で回答してください。(コマ数)
- Q6：1週間あたりのオンデマンドの授業で履修科目数を回答してください。(コマ数)
- Q7：授業以外の予習・復習・課題等に1日あたりどのくらいの時間をかけていますか？
- Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。
- [1_課題が多い]
 - [2_教員とコミュニケーションがとれない]
 - [3_他の学生とコミュニケーションがとれない]
 - [4_座っている時間が長く目や腰などがつかれる]
 - [5_PCなどの操作がわからない]
 - [6_運動不足になった]
 - [7_生活が不規則になった]
 - [8_授業についていけない]
- Q9_1：オンタイム授業のメリットだと1番感じていることを選んでください。
- Q9_2：オンタイム授業のメリットだと2番目に感じていることを選んでください。
- Q10_1：オンタイム授業のデメリットだと1番に感じていることを選んでください。
- Q10_2：オンタイム授業のデメリットだと2番目に感じていることを選んでください。
- Q11：オンタイム授業の中でもっとも学べた実感のある授業の科目名を教えてください。(50文字以内)
- Q12：Q11で答えた科目で学べたと感じた理由を教えてください。(100文字以内)
- Q13：その他、オンタイム授業について困っていることや不安なことがあれば教えてください。(100文字以内)
- Q14_1：オンデマンド授業のメリットだと1番に感じていることを選んでください。
- Q14_2：オンデマンド授業のメリットだと2番目に感じていることを選んでください。
- Q15_1：授業のデメリットだと1番に感じていることを選んでください。
- Q15_2：授業のデメリットだと2番目に感じていることを選んでください。
- Q16：オンデマンド授業でもっとも学べた実感のある授業の科目名を教えてください。(50文字以内)
- Q17：Q16で答えた科目で学べたと感じた理由を教えてください。(100文字以内)
- Q18：その他、オンデマンド授業について困っていることや不安なことがあれば教えてください。(100文字以内)
- Q19：2020年後期の授業は(このまま感染が再拡大等しない場合)、対面授業を実施する予定です。第二波への備えとして遠隔授業は継続した方がよいと思いませんか？
- Q20：東北学院大学の遠隔授業やその実施体制について、不安なことがあれば記入してください。(200文字程度)

報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

報告概要

調査報告の目的

- ① 全学的な観点から、2020年度後期における授業改善を行うため学生の意見を収集・分析し学内における授業や事務手続きに活かす。また、後期授業の実施方法への意向を分析し、第二波への対応も含めた意思決定を支援するものである。
- ② 回答率は学部学生の34.9%であった。本調査の集計・分析結果から後期授業への改善に資するために教職員・学生へフィードバックを行う。集計結果と全学的な観点から改善を行う事項についてHP等で公開する。

報告概要

報告概要（全般）

- 授業外学修時間は「課題」を求めているため「単位の実質化」の観点では効果を示している

各学部履修細則記載

○単位制度とは（根拠）

大学設置基準で1単位は45時間の学習を必要とするとあります。2単位であれば90時間です。

本学は1時限を2時間の授業時間と定めていますので、15回で30時間となります。

つまり、2単位であれば90時間から30時間を引いた60時間を授業以外で学習しなければなりません。

15回の授業ですから、1回につき予習2時間、復習2時間が必要だということです。

これを事前、事後の学習と呼んでいます。しっかりと予習、復習を行って、授業内容に理解に努めて下さい。

- オンタイム授業は時間通りに授業を行うことと、教員とのコミュニケーションによる質問ができること、オンデマンド型授業について、わからない部分を復習できる効果がある肯定的にとらえている。履修コマ数の多い2・3年生ほど課題が多いと感じていること、他の学生とのコミュニケーションが取れないことに不安が多い

報告概要

報告概要

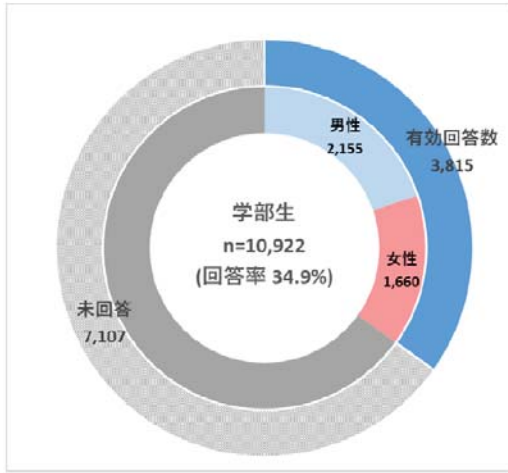
- 「課題」については学年による差異が見られた。「授業」に関する要素は1学年において「質問ができない」、「授業についていけない」等の不安が散見される
- 後期授業への意向は調査期間（～7/13）時点においては「授業の内容や形態に応じて対面と遠隔を組み合わせるのが良い」との回答が多い
- 後期授業を対面を中心に希望する学生は自由記述において「コミュニケーション」と「課題の多さ」、遠隔型授業を希望する学生は「オンデマンド講義による復習ができること」「感染リスク」を理由にしている。

報告内容

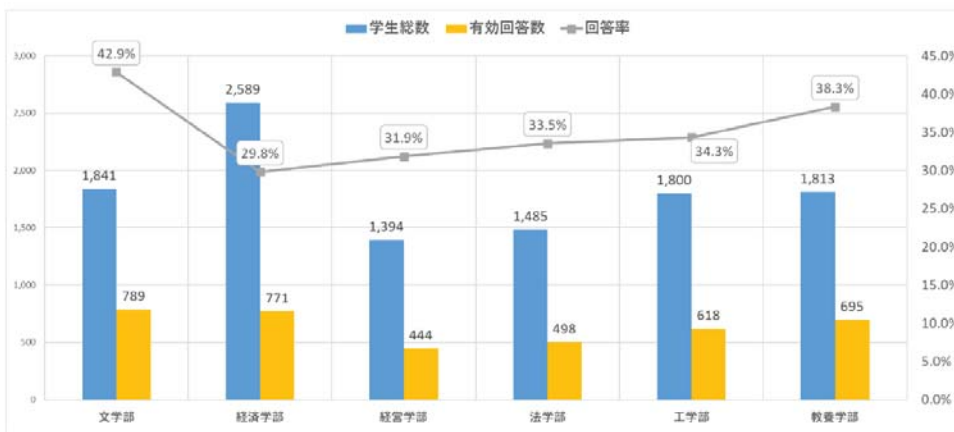
1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

調査集計・分析結果（基礎情報）

学部生回答率は対象者10,922名の34.9%となる3,815名の回答を得た。学年による回答率は大きな差異が見られた。



調査集計・分析結果（基礎情報）



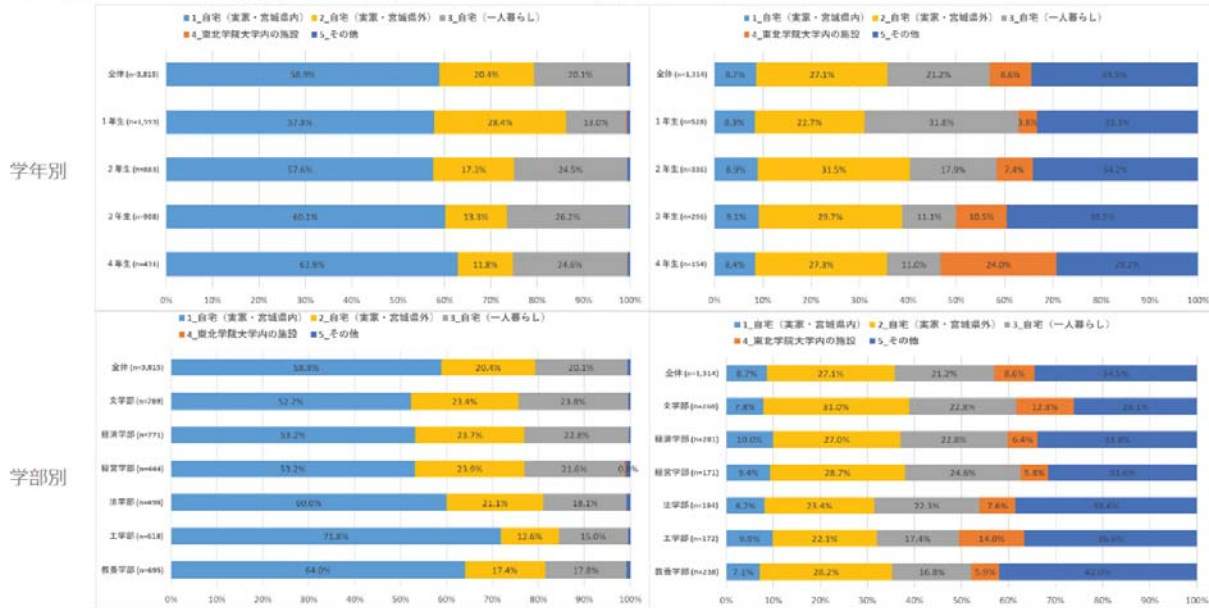
学部生	10,922	3,815	34.9%
文学部	1,841	789	42.9%
英文学科	799	308	38.5%
歴史学科	688	310	45.1%
総合人文学科	196	98	50.0%
教育学科	158	73	46.2%
経済学部	2,589	771	29.8%
経済学科	1,814	523	28.8%
共生社会経済学科	775	248	32.0%
経営学部	1,394	444	31.9%
経営学科	1,394	444	31.9%
法学部	1,485	498	33.5%
法律学科	1,485	498	33.5%
工学部	1,800	618	34.3%
電子工学科	17	2	11.8%
電気情報工学科	8	0	0.0%
電気電子工学科	434	170	39.2%
環境建設工学科	459	113	24.6%
情報基盤工学科	430	153	35.6%
機械知能工学科	452	180	39.8%
教養学部	1,813	695	38.3%
人間科学科	455	188	41.3%
言語文化学科	452	187	41.4%
情報科学科	452	172	38.1%
地域構想学科	454	148	32.6%

学生の学部学科・学年情報は学籍情報を正として集計をしている

調査集計・分析結果（基礎情報）

Q3_1：遠隔授業の受講場所で主な利用場所

Q3_2：遠隔授業の受講場所で2番目に利用している場所

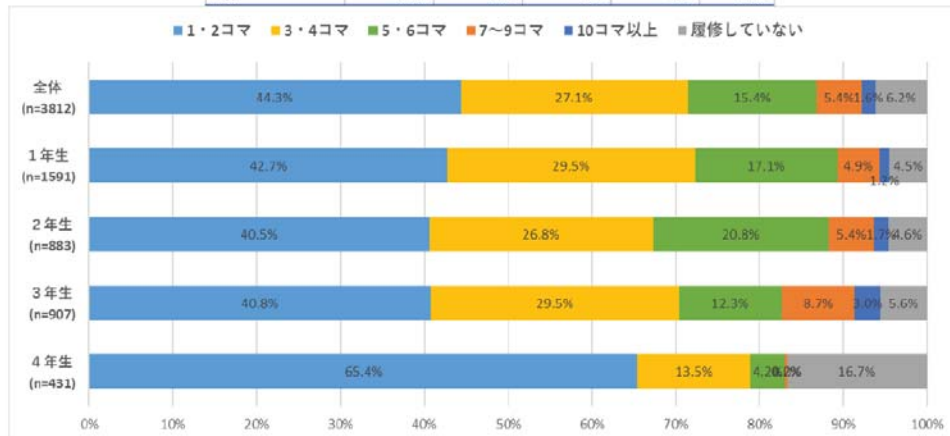


調査集計・分析結果（基礎情報）

Q5：1週間あたりのオンタイムの授業を履修科目（コマ）数

Q5 サマリ	1年生	2年生	3年生	4年生	全体
1・2コマ	680	358	370	282	1690
3・4コマ	470	237	268	58	1033
5・6コマ	272	184	112	18	586
7～9コマ	78	48	79	1	206
10コマ以上	19	15	27		61
履修していない	72	41	51	72	236
全体	1591	883	907	431	3812

AVG.	
1年生	3.10
2年生	3.30
3年生	3.32
4年生	1.57
全体	3.03

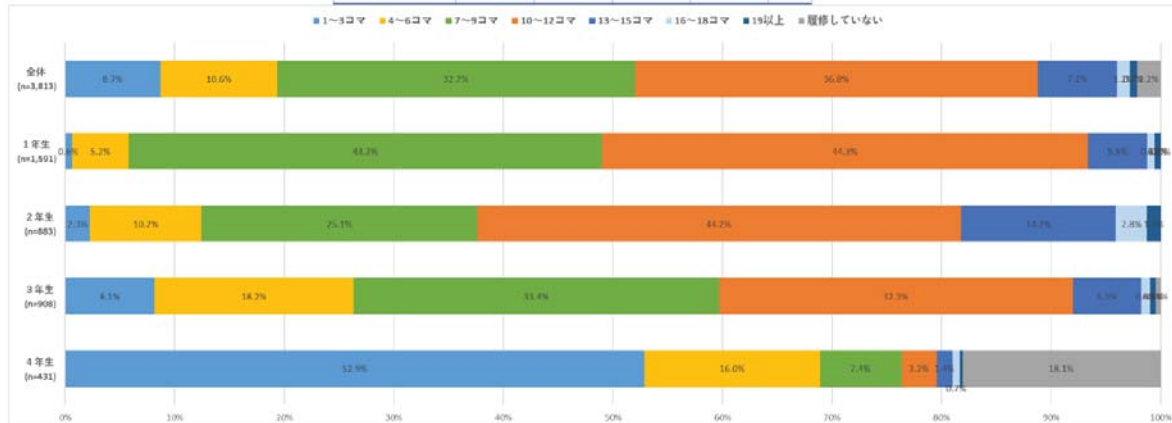


調査集計・分析結果（基礎情報）

Q6：1週間あたりのオンデマンドの授業で履修科目（コマ）数

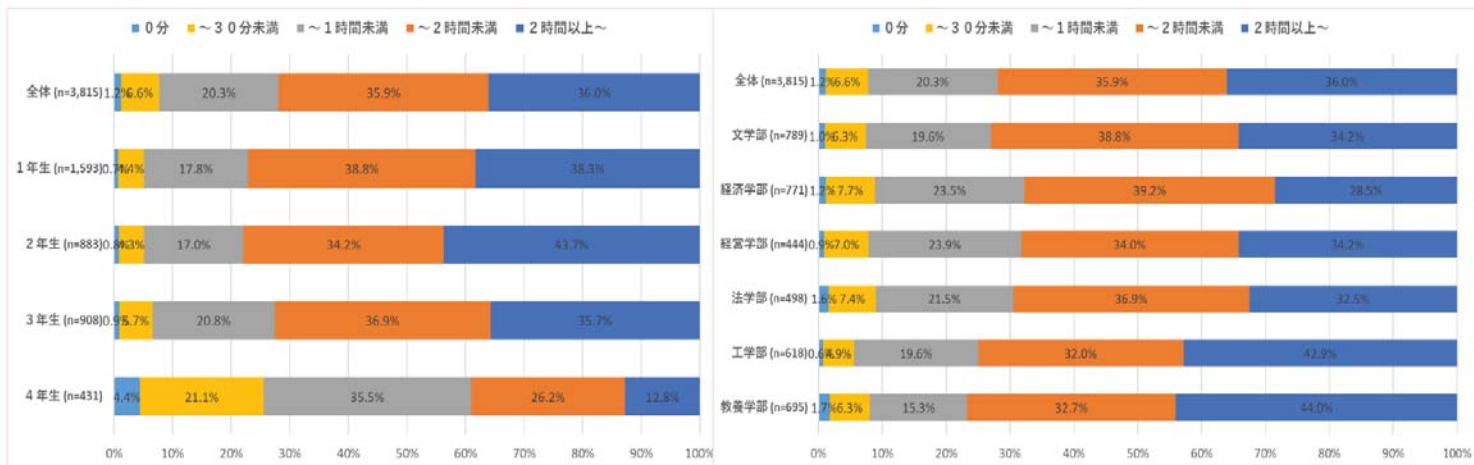
Q6_サマリ	1年生	2年生	3年生	4年生	全体
1～3コマ	10	20	74	228	332
4～6コマ	82	90	165	69	406
7～9コマ	688	222	303	32	1245
10～12コマ	705	390	293	14	1402
13～15コマ	87	125	57	6	275
16～18コマ	10	25	7	3	45
19以上	9	11	5	1	26
履修していない			4	78	82
全体	1591	883	908	431	3813

AVG.	
1年生	9.6
2年生	10.1
3年生	8.4
4年生	3.0
全体	7.8



調査集計・分析結果（基礎情報）

Q7：授業以外の予習・復習・課題等に1日あたりの時間



報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

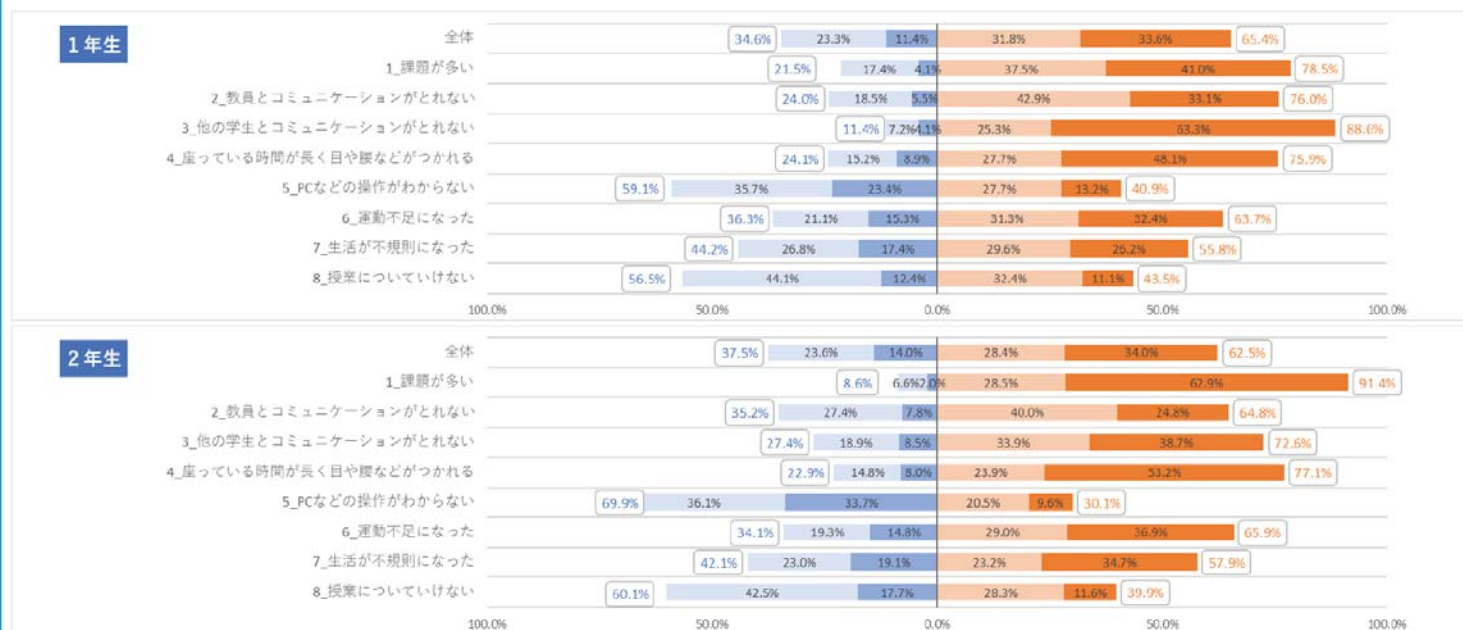
調査集計・分析結果（遠隔型授業全般の状況）¹⁷

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていること（8設問、4件法）

- ・ 主に2～3年生が「課題が多い」不安が顕著（授業の内容と課題の量に対するコメントが自由記述欄で多い）
- ・ 「他の学生とのコミュニケーション」がとれないことへの不安は1年生が顕著
- ・ 全体的に「教員とのコミュニケーションがとれない」不安はあるが1～4年生の順となっている
- ・ PC・タブレット・スマートフォンでの受講のため、健康への不安、運動不足への不安がある
- ・ PCの操作への不安は学年・学部における不安感は少ない（個別対応で可能）

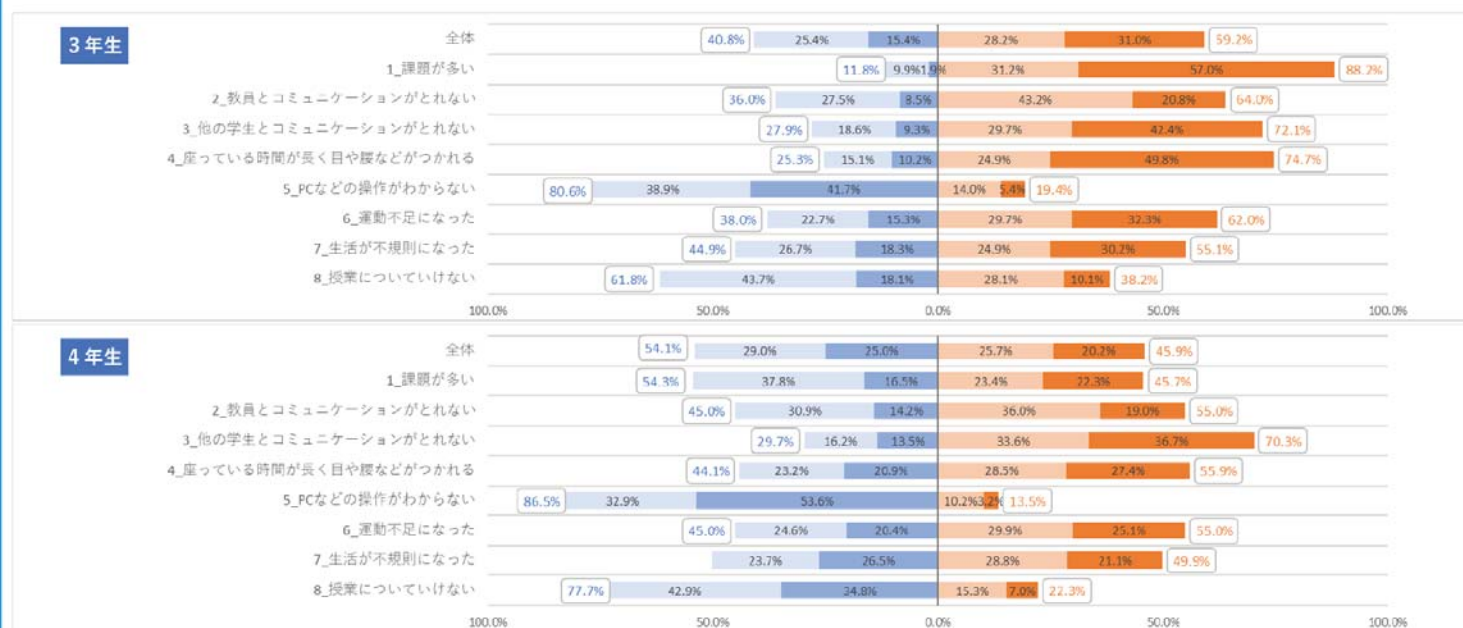
調査集計・分析結果（遠隔型授業受講状況）¹⁸

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。



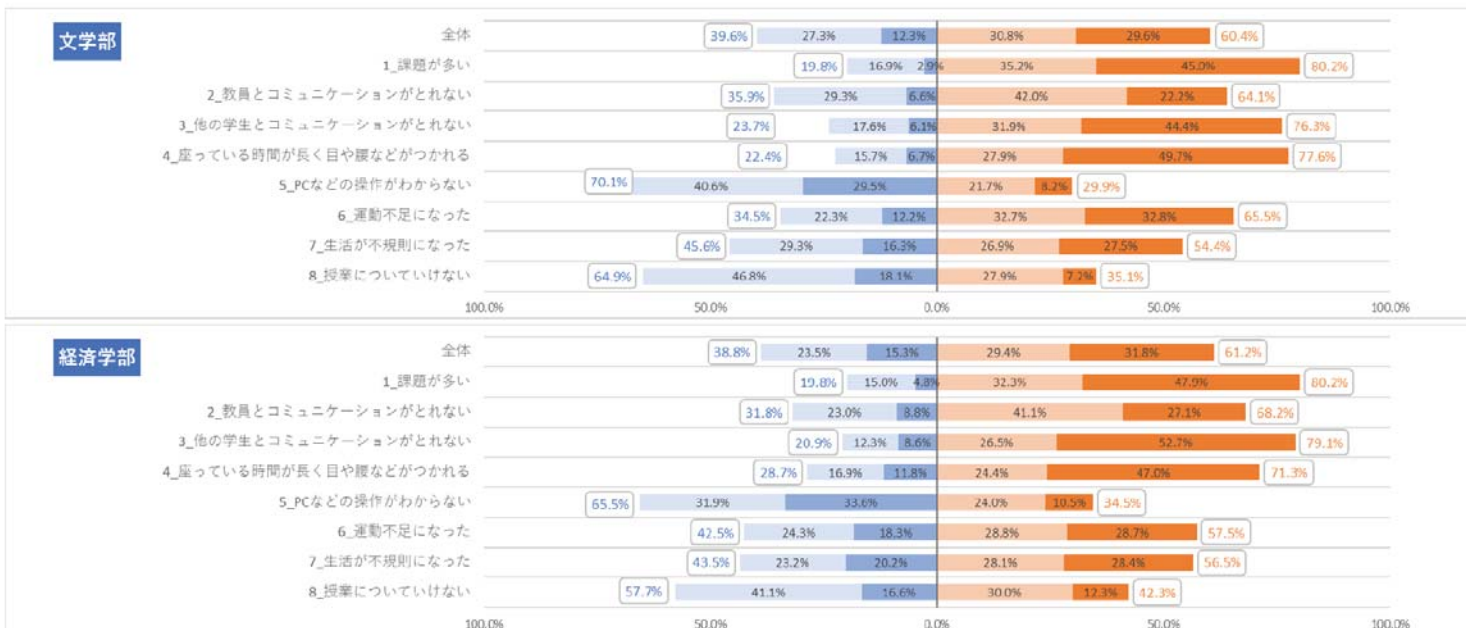
調査集計・分析結果（遠隔型授業受講状況）¹⁹

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。



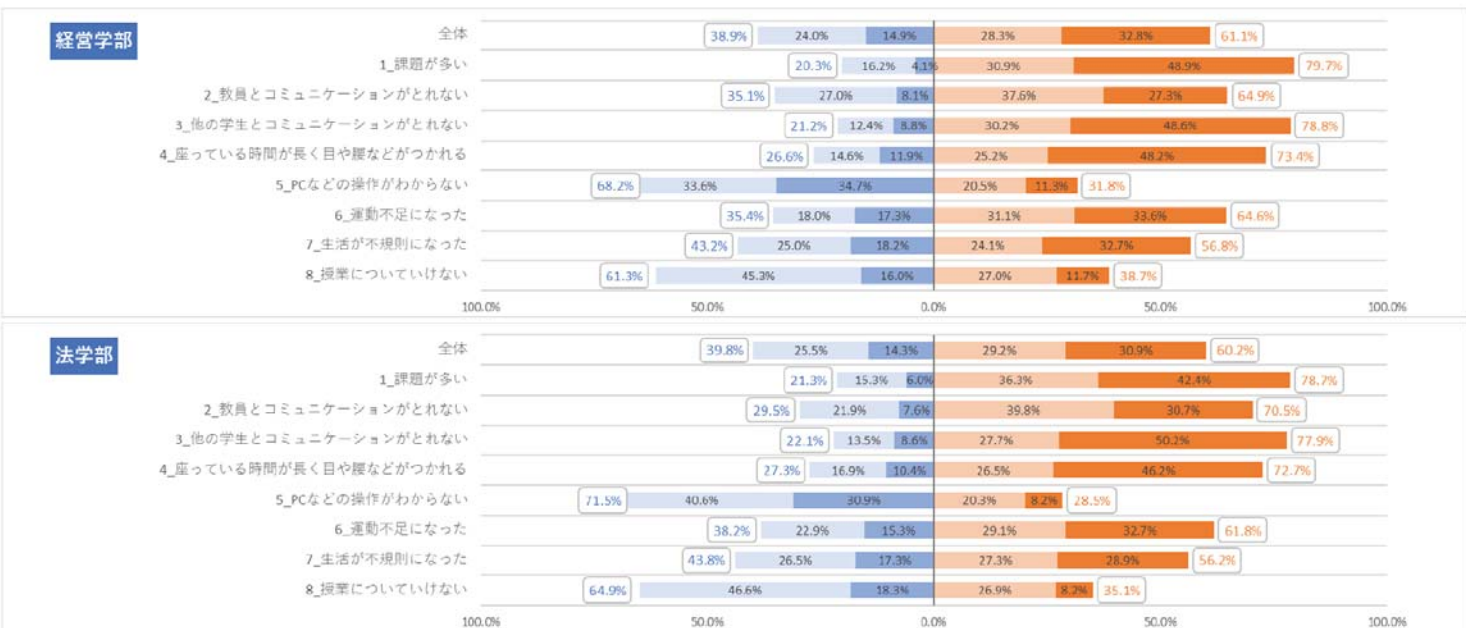
調査集計・分析結果（遠隔型授業受講状況）²⁰

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。



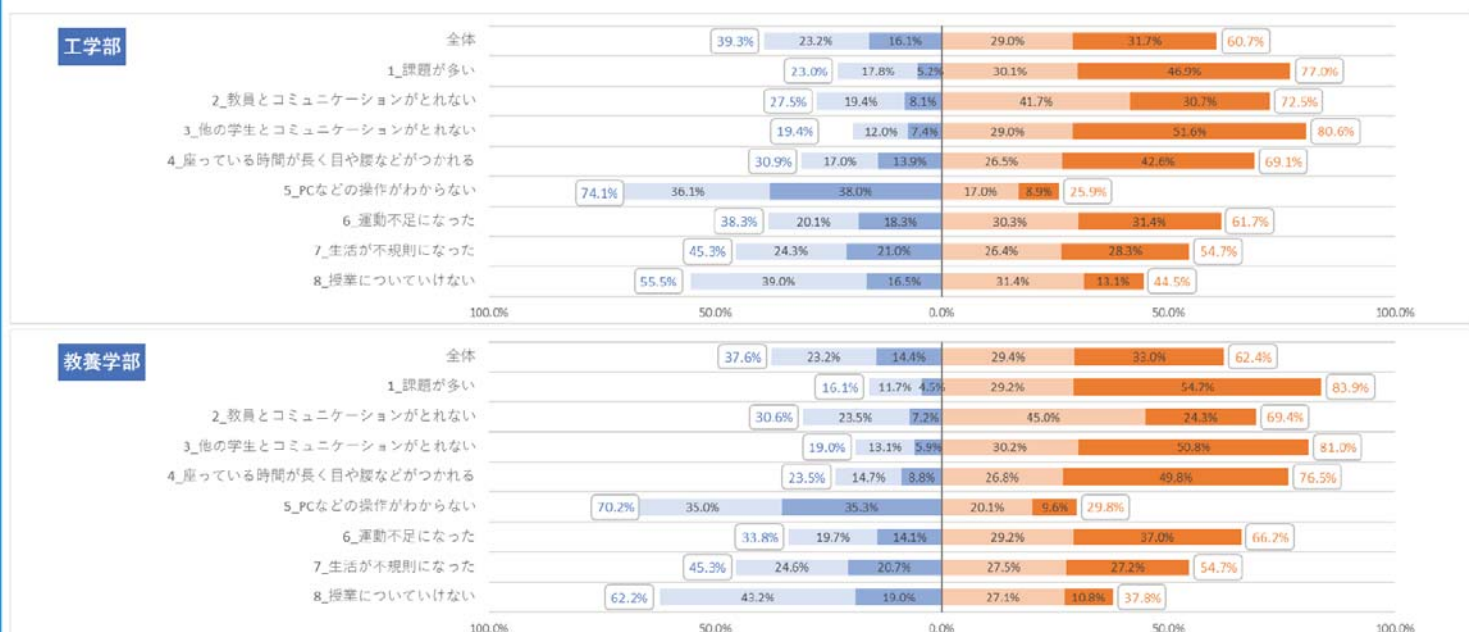
調査集計・分析結果（遠隔型授業受講状況）²¹

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。



調査集計・分析結果（遠隔型授業受講状況）²²

Q8：遠隔授業で次のうち困ったことや不安に感じていることを回答してください。



報告内容

23

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

調査集計・分析結果（オンタイム授業）

24

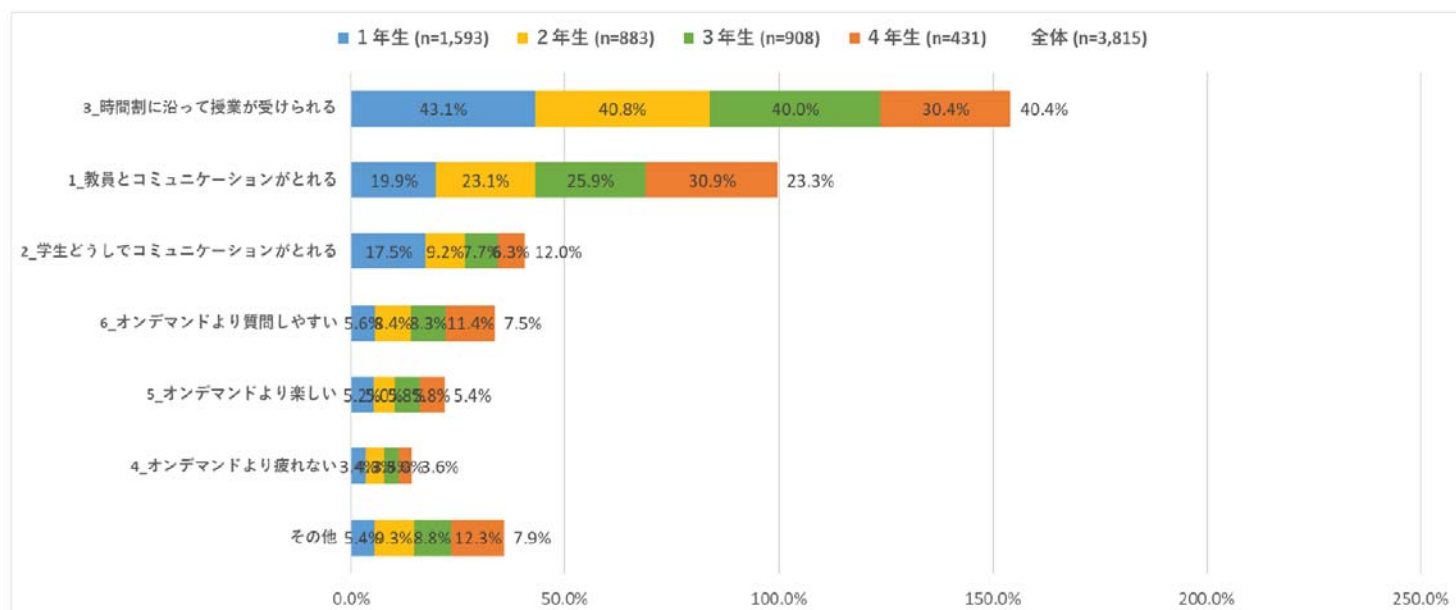
オンタイム授業のメリットについて

- オンタイム授業におけるメリットは「時間割に沿って授業が行われる」ことにあるが、「教員と他の学生とのコミュニケーション」にメリットを感じている学生が顕著である
- 特に、経済学部・経営学部において「学生どうしてコミュニケーションがとれる」と回答する割合が高く、2番目のメリットとして「教員とコミュニケーションがとれる」と回答している
- その他は主に「特にない」、「受講していない」

調査集計・分析結果（オンタイム授業）

25

Q9：オンタイム授業のメリットだと1番感じていること

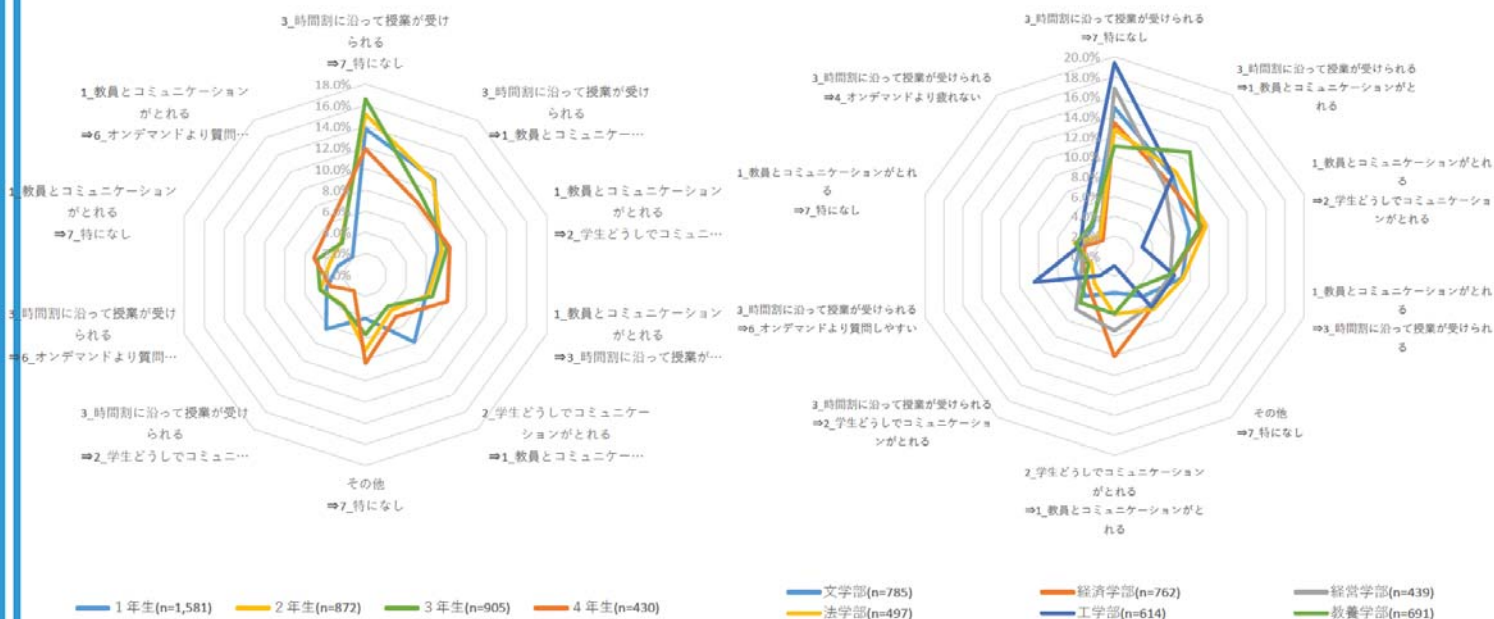


調査集計・分析結果（オンタイム授業）



26

Q9：オンタイム授業のメリット（1→2番目の回答上位10）



調査集計・分析結果（オンタイム授業）



27

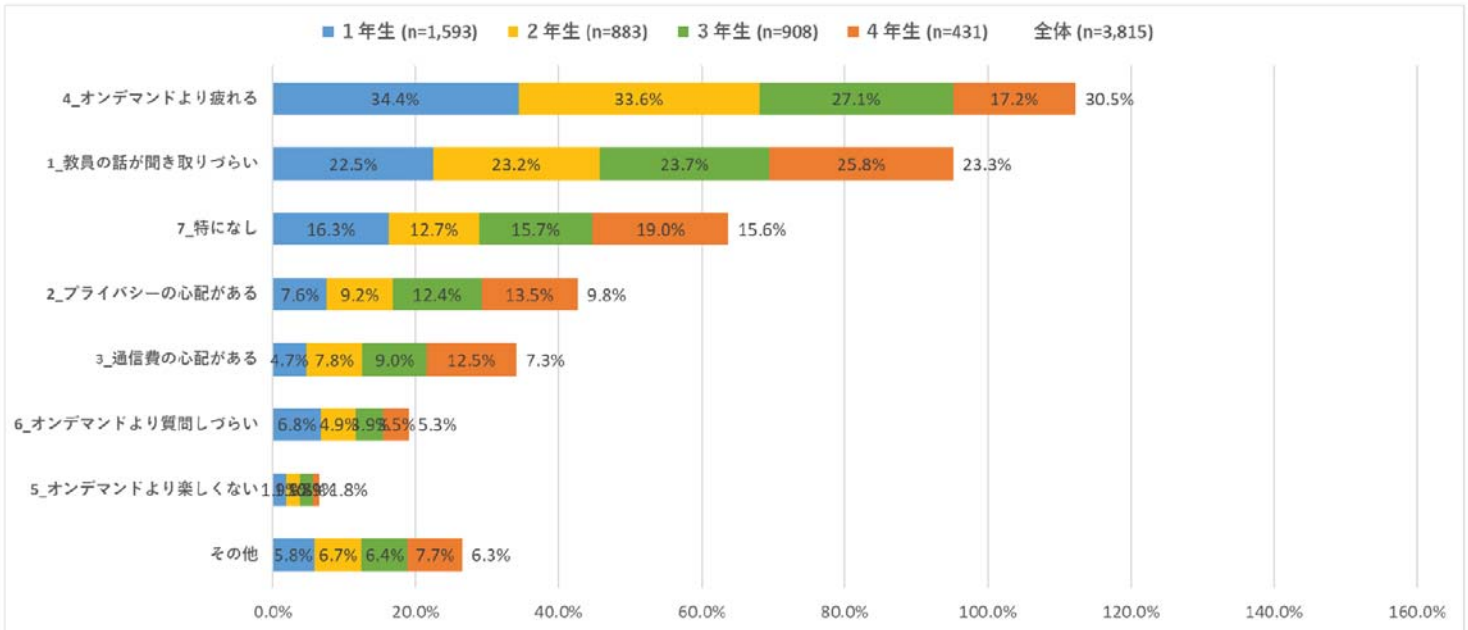
オンタイム授業のデメリットについて

- デメリットとして主に1～2年生では「オンデマンド授業より疲れる」を選択しているが、3～4年生では「教員の話が聞き取りづらい」となっている。
- プライバシーに関する不安を選ぶ学生はQ13にて、カメラをオンにすることを求められると記述する傾向にある
- その他は主に「通信環境」、「受講していない」、「授業の手法（質疑応答と双方向性がない）」に言及されている

調査集計・分析結果（オンタイム授業）



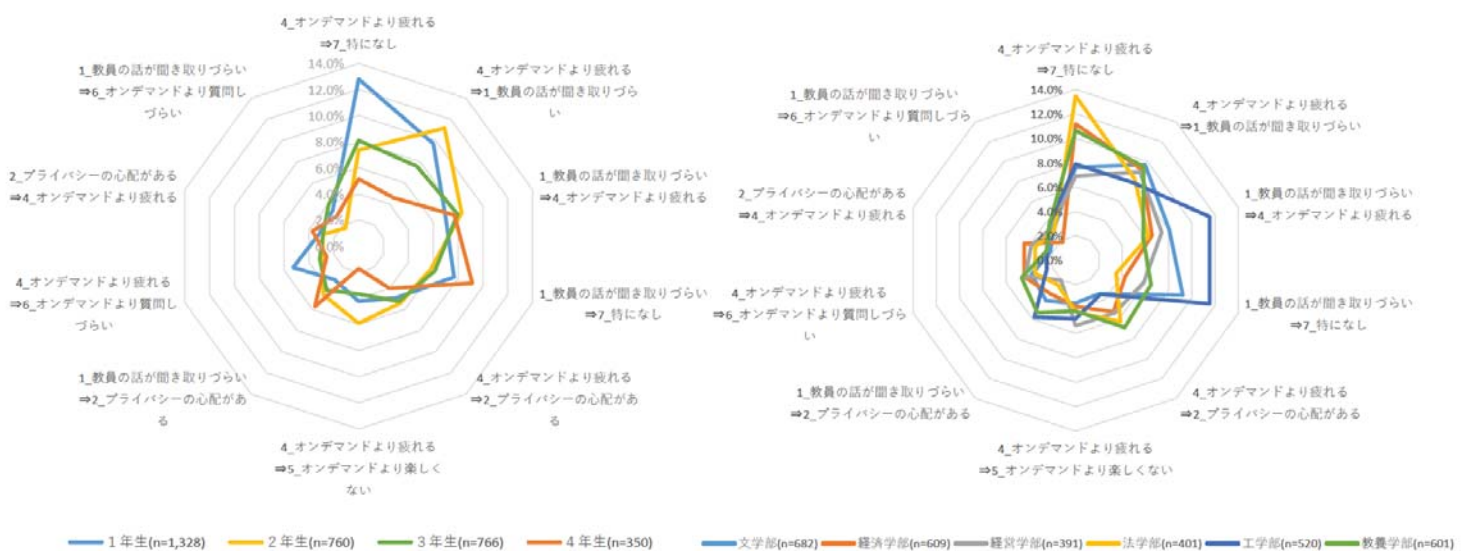
Q10：オンタイム授業のデメリットだと1番に感じていること



調査集計・分析結果（オンタイム授業）



Q10：オンタイム授業のデメリット（1→2番目の回答上位10）



報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

調査集計・分析結果（オンデマンド授業）³¹

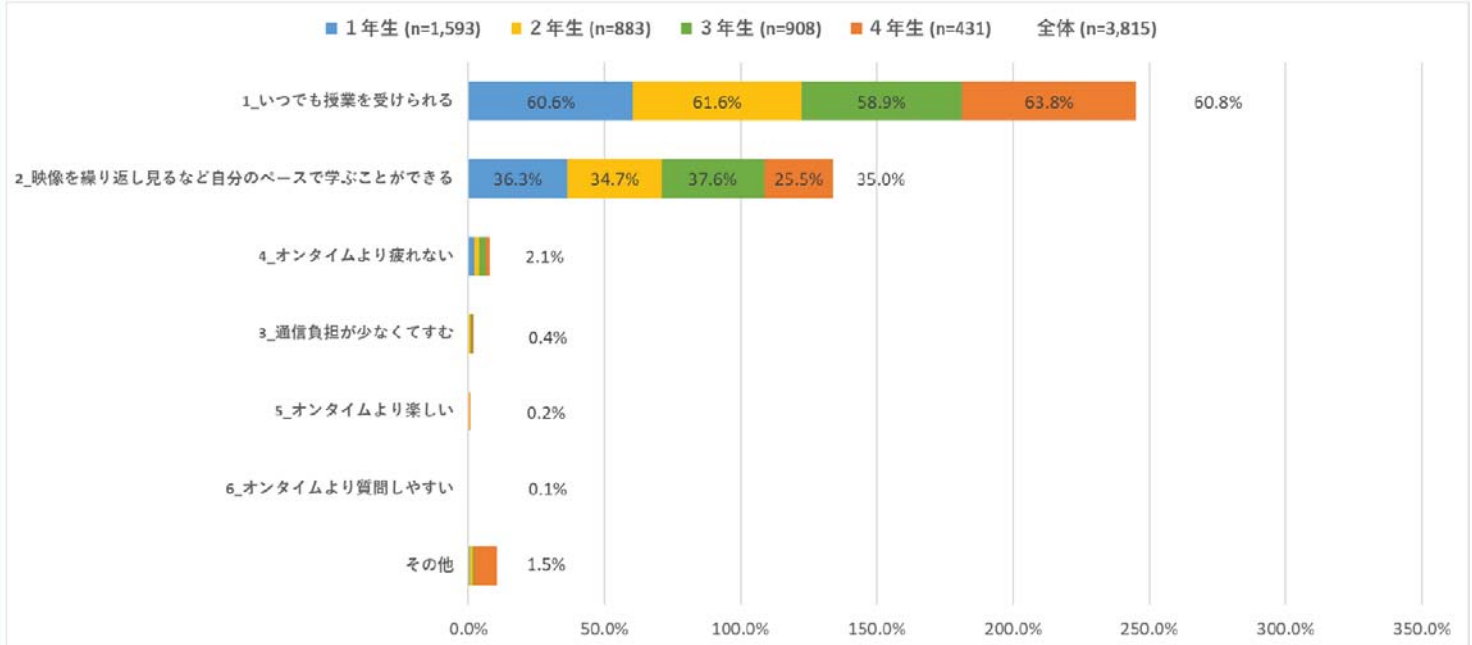


オンデマンド授業のメリットについて

- 学年・学部を問わず「いつでも授業を受けられる」、「映像を繰り返し見ることなど自分のペースで学ぶことができる」ことにメリットがある
- その他は主に、「受講していない」、「通学時間が削減できる」、に言及されている

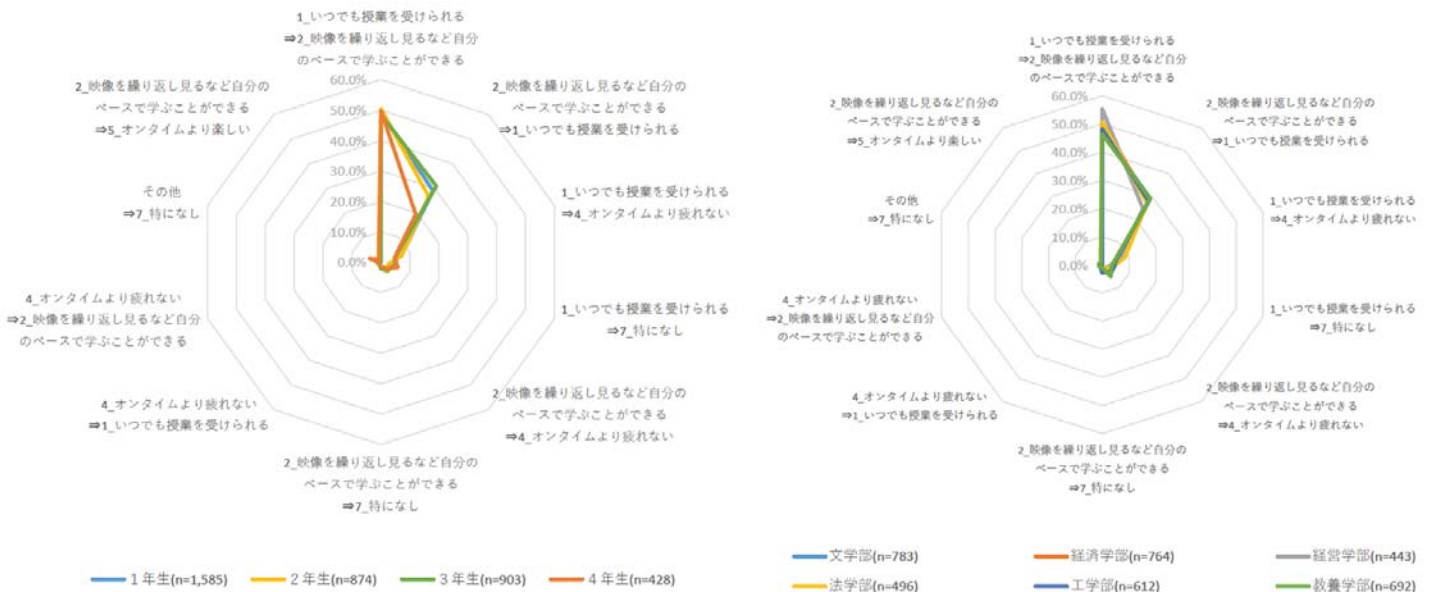
調査集計・分析結果（オンデマンド授業）

Q14：オンデマンド授業のメリットだと1番に感じていること



調査集計・分析結果（オンデマンド授業）

Q14：オンデマンド授業のメリット（1→2番目の回答上位10）



調査集計・分析結果（オンデマンド授業） 34

OnDemand

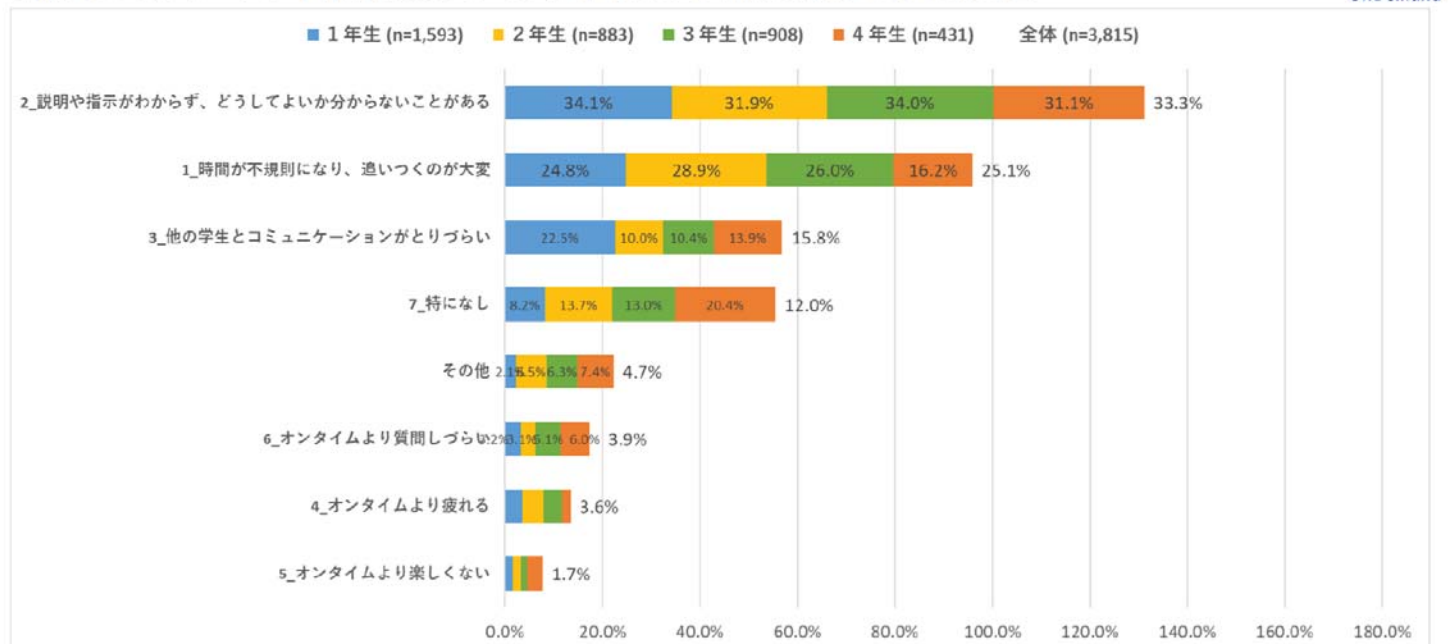
オンデマンド授業のデメリットについて

- 学年・学部を問わず「説明や指示がわからず、どうしてよいか分からないことがある」、「時間が不規則になり、追いつくのが大変」、ついで「他の学生とコミュニケーションがとりづらい」ことにデメリットを感じている。
- その他は主に、「課題が多い」、「授業の質と課題の量」、「印刷費がかかる」、「受講していない」に言及されている

調査集計・分析結果（オンデマンド授業） 35

OnDemand

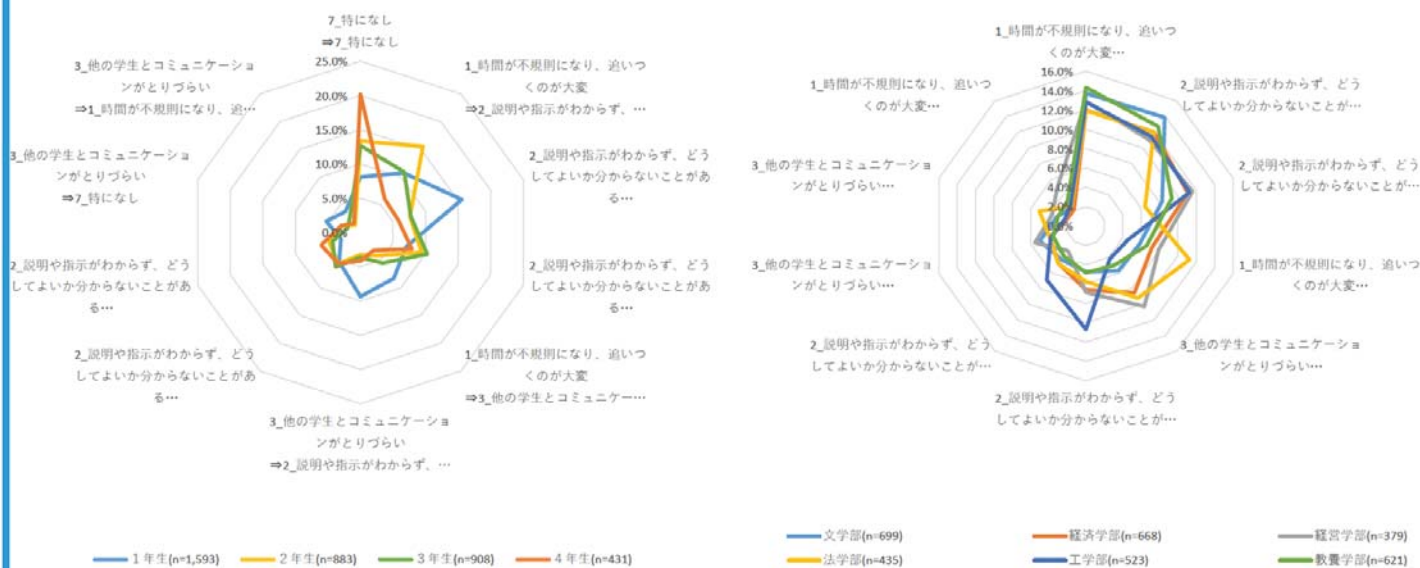
Q15：オンデマンド授業のデメリットだと1番に感じていること



調査集計・分析結果（オンデマンド授業）



Q15：オンデマンド授業のデメリット（1→2番目の回答上位10）

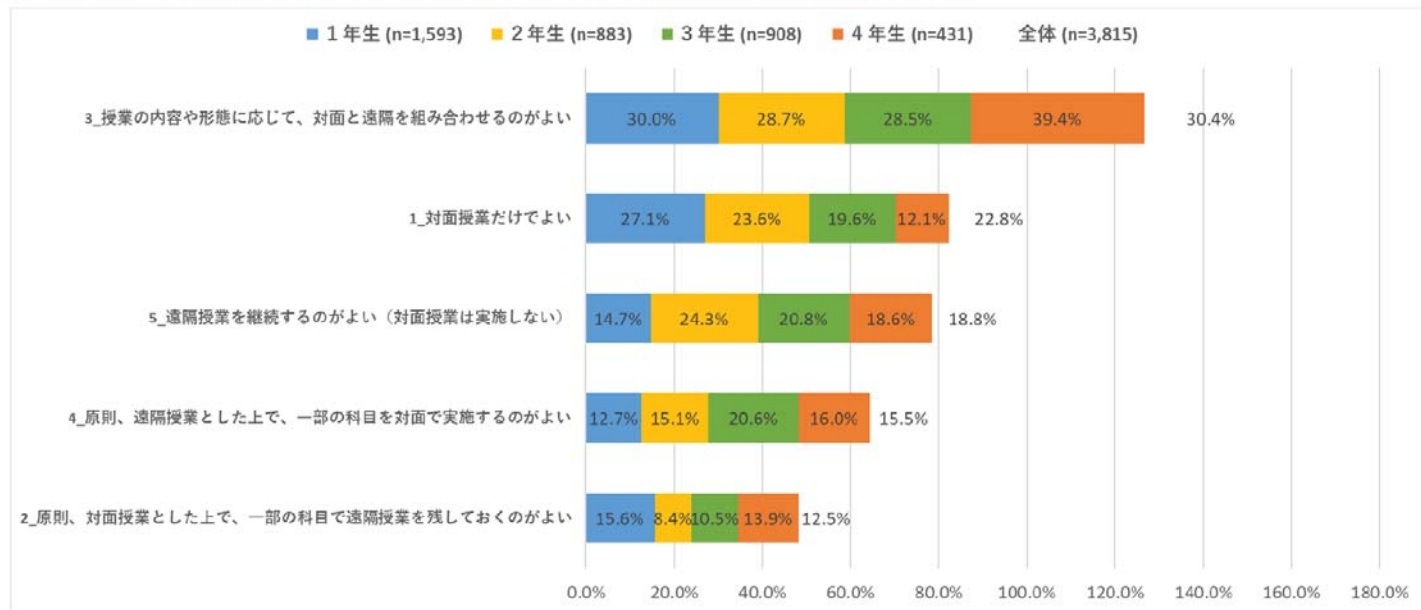


報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

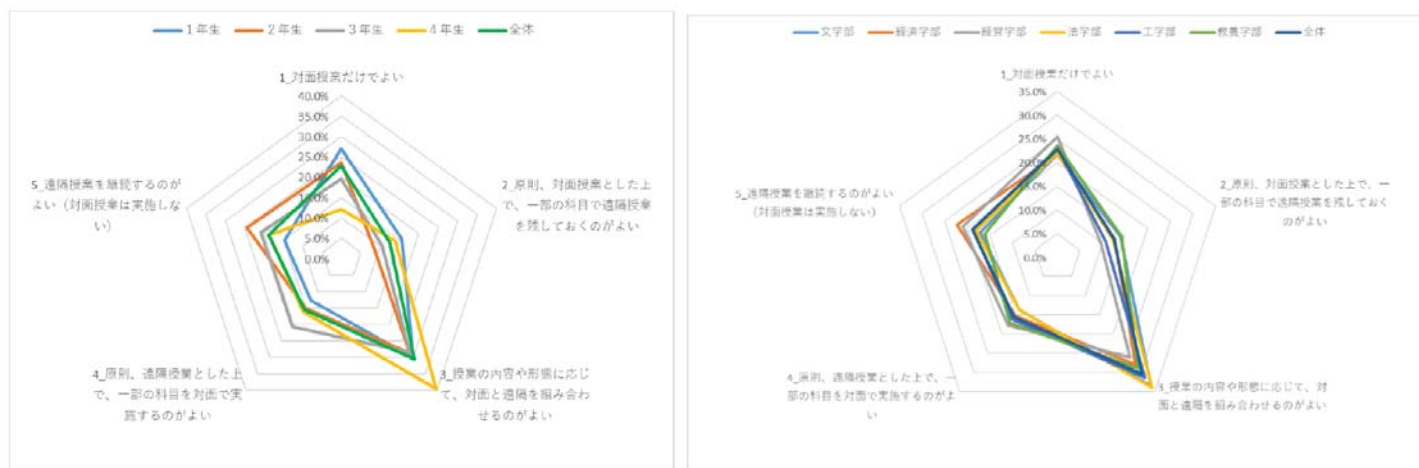
調査結果（後期授業に対する意向）

Q19_1：2020年後期の授業は（このまま感染が再拡大等しない場合）、対面授業を実施する予定です。第二波への備えとして遠隔授業は継続した方がよいと思いますか



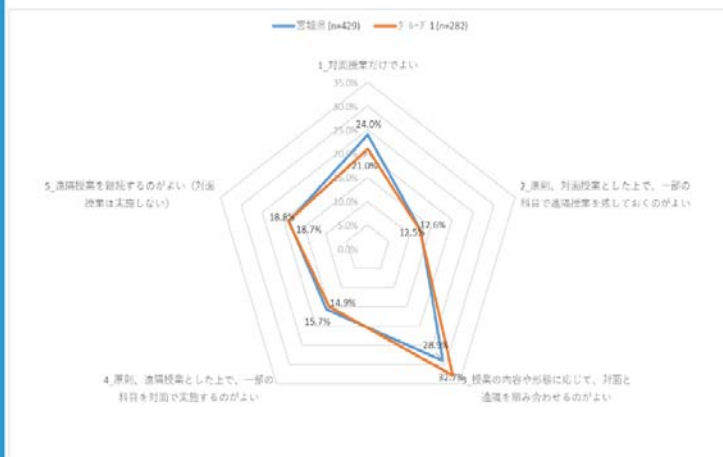
調査結果（後期授業に対する意向）

Q19_1：2020年後期の授業は（このまま感染が再拡大等しない場合）、対面授業を実施する予定です。第二波への備えとして遠隔授業は継続した方がよいと思いますか



調査結果（後期授業に対する意向）

Q19_1：020年後期の授業は（このまま感染が再拡大等しない場合）、対面授業を実施する予定です。第二波への備えとして遠隔授業は継続した方がよいと思いますか



報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述
4. 教育課程の質保証にむけた改善提言

調査結果（自由記述）

Q20：遠隔授業やその実施体制について、不安なこと（自由記述）

- 自由記述は943件（特になし等を除く）の記述
- KH-coderによるテキストマイニングを実施した
- 記述内容は大きく「授業と課題」、「後期授業」にカテゴライズされる

※記述内容については、個人が特定される内容を全て削除し学長・副学長・学部長に対し「自由回答集」として報告した。遠隔授業やその実施体制について、他の設問の分析結果を基に学長より改善指示を行う。

調査結果（自由記述）

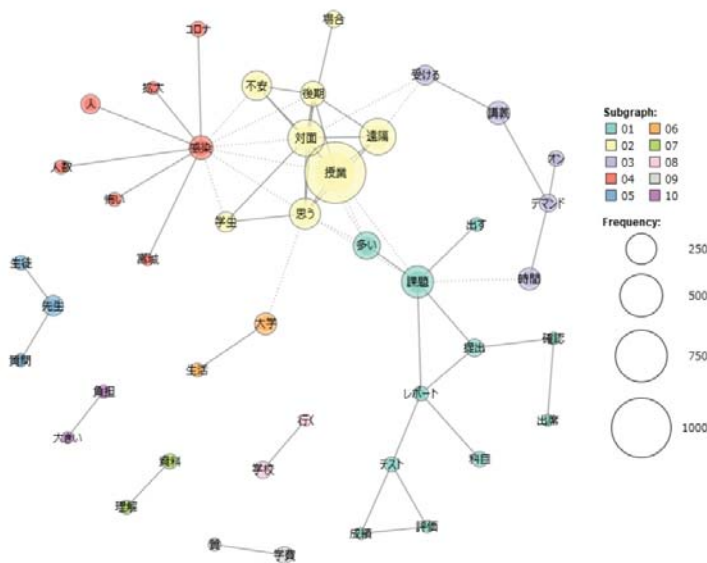
Q20：遠隔授業やその実施体制について、不安なこと（自由記述）

- 授業に関する記述は「授業の手法」「質疑」「成績評価」に分けられる
- オンライン授業とオンタイム授業によって事前事後学修を含む学習時間がとりやすく、授業に集中できるポジティブな回答も見られるが、課題に対する不安がある
- オンライン授業は「コミュニケーションがとれる利点」「カメラのオン・オフ」と「プライバシー」への記述が見られる
- オンデマンド授業は特に「資料もしくは音声のみ」「合成音声」に対しての不安・不満が多い
- 「後期授業」は、「対面型授業再開への期待」、「第2波への不安」に分けられる

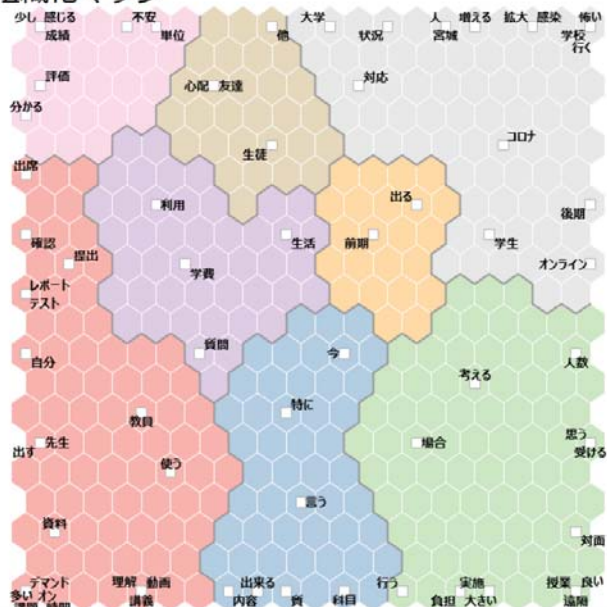
調査結果（自由記述）

Q20：東北学院大学の遠隔授業やその実施体制について、不安なことがあれば記入してください。

共起ネットワーク図



自己組織化マップ



報告内容

1. 「遠隔型授業の受講状況に関する学生調査」の目的
2. 報告概要と提言
3. 調査集計・分析結果
 - a. 基礎情報
 - b. 遠隔型授業全般の状況
 - c. オンタイム授業
 - d. オンデマンド授業
 - e. 後期授業に対する意向
 - f. 自由記述

4. 教育課程の質保証にむけた改善

教育課程の質保証にむけた改善

学長より調査結果を教職員全体に公表し改善を指示をしました

1. 全学レベルでの改善

- ・FD推進委員会が中心となり全学FDを実施する
- ・前期授業のグッドプラクティスについて学ぶ機会を設け質保証に努める

2. 学部レベルでの改善

- ・学部長を中心に学部FDを実施する
- ・特に、「教職員のための遠隔授業実施ガイド」に基づかない教員の改善は急務とする

3. 授業レベルでの改善

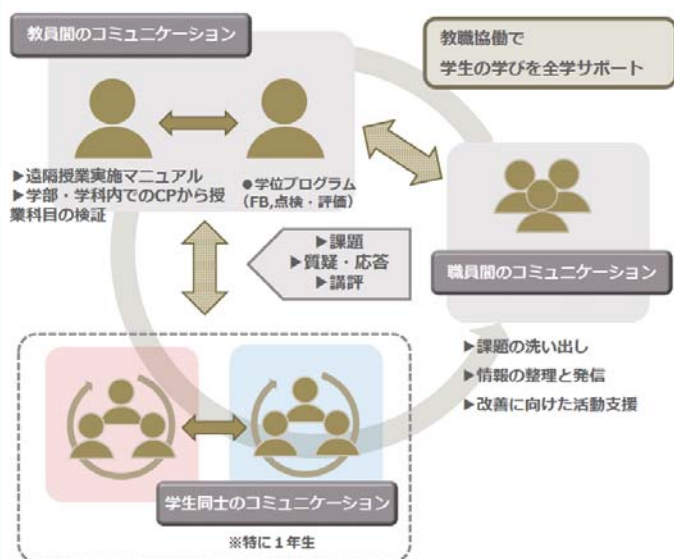
- ・「教職員のための遠隔授業実施ガイド」の改訂版を作成
- ・科目担当教員（非常勤講師を含む）は、ガイドに照らした後期授業の在り方を見直す

4. 修学に関する相談体制の見直し

- ・学生や保証人の多様な悩みに対応する体制をわかりやすく明示し、様々な手法によりその周知を積極的におこなう
- ・各部署における学生サービスの見直しをおこなう（対面にこだわらない）

教育課程の質保証にむけた改善

遠隔型授業は多面的な「コミュニケーション」を改善すること



●課題の多くは「コミュニケーション」改善が重要

- ▶ **教員（職員）・学生間のコミュニケーション**
情報共有のルール（時間・ツール等）平準化
質疑の場の提供・応答
課題へのフィードバック
- ▶ **教員間のコミュニケーション**
学位プログラムごとに授業方法に関してFD（good Practiceの共有等）の実施と点検・評価
- ▶ **学生間のコミュニケーション**
特に1年生へのケア重視
- ▶ **職員間のコミュニケーション**
情報の共有・整理と発信
課題の洗い出し
改善に向けた活動支援

